

朝鮮石人像を訪ねて (41)

深田 晃二

「朝鮮石人像を訪ねて」シリーズは2008年9月からスタートしてすでに8年目に入っている。博物館などの石人像はそのまま固定していることが多いが、古美術商や店頭飾りとして置いてあるものは移動することが多い。そんな3例を紹介する。

☆ ギャラリー帝塚山 ☆

大阪御堂筋の東側で堂島川沿いの大阪高等裁判所と国道1号線の間に挟まるように「老松通り古美術街」がある。この東端にこの店の本店と支店の2軒がある。阿倍野・奈良・東京にも店を持つ6軒のチェーン店である。2月16日に老松町の本店を尋ねた。ここで見かけた2体の石人像の由来を若い店員に聞いたが、わからないということだった。

「訪ねて(10) 2010.7.25」で紹介した神戸市東灘区の本山中学前の石人像の有った支店が大阪駅前のヒルトンホテルに引っ越したことは、「訪ねて(39) 2015.11.29」の東京支店長の情報として紹介した。東灘の支店の初訪問は2009年8月30日である。ヒルトン店を2月27日に訪ねると、6年前に神戸からヒルトンホテルに引っ越し、東灘に有った石人像は老松本店に移ったとのことだった。行方がわかってひと安心である。写真で比較するとこのようになる。



↑ 2009年8月30日当時の神戸東灘区店頭
2016年2月16日現在の大阪老松町店頭 ↓



☆ 西宮樋之池町 ☆

「訪ねて(10)」のご近所の石人像・2で書いた美術陶器屋Gさんの店頭の像がなくなった。



昨年9月27日に慶州の佛国寺石獅子を探す韓国KBSの取材が有ったことは編集後記で書いたが、その時この店の石人像も映像に収めた。女性主人が応対してくれて由来を話してくれた。10年前に亡くなった岐阜の父親から開店の時に贈ってもらったもので李朝のものと認識している、との事だった。11月中旬に外壁工事が始まりじゃまになるためか撤去された。

工事の人に行方を聞くと家の中に入れてあるとのことだったが、取材で危惧を感じて室内に納めたのが現在は残念ながら右の写真のように木が植えてある。

☆ 京都・円山公園長楽館 ☆

「訪ねて(2) 2008.11.30」で紹介した京都円山公園長楽館の左の童子像は確認できたが文人像2体が姿を消している。撮ったはずの確認用写真が出てこないの



↑ 2008年9月16日当時の長楽館
で次の機会に再度確認することにする。

☆ FaceBookからの新情報 ☆

FaceBookを愛用されている方も多いと思うが、そこから石人像情報が入ってくることが最近多いと感じる。訪ねて(40) 2016.1.31の名古屋・長楽寺しかり、今回は東京方面で石人像を含め朝鮮文化を訪ねている人と巡りあった。

“むくげ通信をたまたまウェブで読み、Facebookで検索すると深田さんの名前が出てたので、申請させ

て頂きました。アンニョンハシムニカ ペコリ。まずは私の自己紹介からします。私は1969年生まれの今年46歳になるペンネームはリチャードゴンというものです。おっさんす。東京生まれ&東京育ちの在日三世です。東京朝鮮第一初中級学校卒、東京朝高卒、朝大の歴史地理学部を卒業後、社会人となり現在は焼肉店を営みます。旅と歴史を楽しむ人生で、私のFBの内容もそのようになってます。たまに政治やお笑いも書き込みます。もし良ければ、Facebook 友達になって頂けたら嬉しいです。

石人がある場所をお伝えします。北区王子駅から上中里駅の間に「七社神社：ななしゃじんじゃ」という所があります。ここに2体の石像があります。私がUPしているブログにも書きました。ご参考にしてください。

『上中里から王子駅散策①「七社神社」2014/11/13

久々に後輩のHY君と歴史地理散策に出ました。私は上中里駅に降りた事が無く、今日はじめて降り立つ事となりました(2014/11/9)。この駅から西北に「七社神社」があり、ここに「孔子像、孟子像」というのがあると聞き訪ねたのです。

東京には、朝鮮から植民地時代に持って来た「武官、



文官」の石像が沢山あり、東京国立博物館（上野）、根津美術館（南青山）、高橋是清翁公園（青山）、ホテルオオクラ等で見える事が出来ます。

話を戻し、上中里に降り立ち七社神社に行くと、石像が2体ありました。社務所に伺い宮司さんに話を聞くとこの石像は古河市兵衛(ふるかわいちべゑ)という人が寄与したそうです。

私たちが、朝鮮半島から来た物が聞く前に「日本で作った物が朝鮮半島から来た物か、わたくし達は分からないのです。ただ、当時はあのような時代だったので、朝鮮半島とは、なんか関わりがあるとは思っています。」と話してくれました。

その他、この地域は古代弥生時代から人が住み、神社の前に海があった事や、今でも神社の敷地内から弥

生時代の方が食べた貝殻が出てくると話し、私たちにその貝を渡してくれました。』”

“あともう一つ石像の情報が 있습니다。鶯谷駅近くの上野郵便局(結構大きい郵便局)の手前に昔骨董品屋があったのですが、この店が昨年火事にあい、現在住宅になりましたが、ここに朝鮮石像があります。店の主人に二年前聞いたところ祖父の時代買った朝鮮石像だと言っていました。当時のお金で2万(現在だと50万くらい)で買ったとか。ぜひこちらもお訪ねください。現在石像が道沿いにポツンと立ってるだけで、すぐに



分かります。もしお時間が合えば一緒に行きましょう。”

こんないい話が舞い込んできます。左の写真は2月1日に

上野の東京博物館を一周した時に寛永寺の東から撮った写真ですが、そこから非常に近い場所のようです。

七社神社と共に次の機会に訪ねます。

☆ 新しい関係 ☆

「天王寺の市立美術館内の正面右側に、新羅の高い石像が立っているのをご存知でしょうか。昨日も、みてきました。姜健栄」

姜先生とは大徳寺を始め新しい付き合いが始まりました。見逃していたので近々訪問します。

☆ 尹達世さんの便りを読み返す ☆

2014年9月に亡くなった尹達世(ユン・ダルセ)さんから頂いたメールを紹介します。

「こんばんは尹達世です。体調がよくなれば来月にも山口県に行こうと思っています。ある個人の私墓に石人像があるので、ついでに撮って来ようと思います。この石人像は深田さんの周りの方は誰も知らないと思います。来歴も調べたいと思います。撮れたら深田さんに送ります。頑張ってくださいよ、これまで誰も調査したことがないジャンルですから。ありがとうございました。(2014.5)」というものです。

ユンさんとは年齢も近くまた酒好き同士で気が合っていた。彼の著書「四百年の長い道・続編」に、「京都東山の阿弥陀ヶ峰の石段の数が秀吉の享年の63歳にちなんで63段で区切ってあるが、少し誤差がある」と書いておられたが、私の計数報告で納得していただいたことが良い思い出である。

紹介して頂く予定だった山口の個人邸の石人像は永久にわからずじまいにはしたくないです。どなたかご存知のかたはご紹介下さい。(続)